

目的 木綿ゆかた地を対象に、地直し処理効果を布の物性および着用実験から検討した。

方法 地直しは、霧吹き状態でくり返し布をアイロニングする方法によった。この地直し処理前後の木綿ゆかた地について、布の力学的特性をまず測定した。そして、これらの布地を用いてゆかたを製作し、着用によって生じる両布のひずみ差に注目した。

結果 木綿ゆかた地の地直し処理効果は、つぎのようにまとめられる。(1) 地直しによる布の力学的特性の変化は、右表のようにまとめられる。(2) ゆかたの着用による布のひずみは、いずれの部位とも着用の経日につれて増大するが、その増大の割合は、地直し処理を施したもののほうが未処理のそれより小さい。(3) たとえば、着用による地直し処理後のゆかたのひずみは、でん部に比してひざ部は殊の外小さい。これは、ひざ部の正座による布の変形が、ほとんどゆかたのタケ方向つまり布のタテ方向

特 性		タテ方向	ヨコ方向
せん断	せん断剛性	減少	
	せん断ヒステリシス	減少	
曲 げ	曲げ剛性	減少	増大
	曲げヒステリシス	減少	増大
圧 縮	圧縮率	布の厚さ変化に依存	
	圧縮レジリエンス	増 大	
引張り	引張り剛性	減少	増大
	引張りレジリエンス	増大	やや減少
し わ	防しわ度	増大	やや増大
	弾性余効	増大	やや減少

のみのものであるから、(1) から地直し処理により、この方向の弾性が増大していることとよく呼応することなどが説明される。(4) さらに、地直し処理を施した布は、未処理のものよりも着用による布の力学的特性の変化が小さく安定している。このように、地直し処理とは、布を安定させ、着用による布の物性変化をできるだけ少なくする処理と言える。